

2025.5.29 (木)
第 43 回例会
(通算3805回)

2024-2025 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第86代会長 高橋 直人
副会長 吉田 英一
幹事 東堂 光春
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2024-2025 年度
国際ロータリーテーマ



2024-2025 年度
RI会長 ステファニー A. アーチック
第 2500 地区ガバナー
小谷 典之 (帯広西 RC)

本日のプログラム 「嵯峨記念奨学生新入生報告会」(嵯峨記念育英会委員会)

次週例会 「クラブアッセンブリー」(次年度理事会)

■ロータリーソング：それこそロータリー ■ソングリーダー：甲賀 伸彦君

■会員数 105 名

■ビジター

■ゲスト 釧路江南高校 佐藤 考弥君・弥郁様 武修館高校 黒澤 琉壺君・水穂子様
武修館高校 半澤 琉成君 武修館高校 大高 健太郎君

会長の時間 高橋 直人会長



皆さん、こんにちは。今日の会長あいさつは、タイ・プロイラーチャブリーロータリークラブとのマッチングによる国際奉仕グローバル

補助金事業の報告をいたします。

5月24日、大歓迎を受けて微笑みの国タイに入国しました。車での送迎で朝食だと勘違いするような屋台の豚串ともち米のセットをごちそうになり、そのまま贈呈式会場に向かうかと思いきや、違い、次は朝食のオープン屋台でごちそうになりました。実は、国際線に搭乗の皆さまご存じと思いますが私はその日すでに2食を済ませており、正直いって4食目の食事になり、手を付けられないわけにもいかず、なんとかいただきました。

その後、贈呈式の会場である施設に到着し、3330地区各クラブ、プロイラーチャブリーロータリークラブ様からの大歓迎を受けて会場に入りました。

式典ではガバナー、パストガバナー、会長、私のあいさつ、贈呈式を行いました。ご存じのとおりタイの気温はその日35度を超えるような暑さで、エアコンのない会場はサウナ状態で、各クラブとの写真撮影が10回以上あり、暑さで倒れそうになりましたが、私のような会長を囲んでいただき大変誇りに思いました。ありがとうございます。

その後、施設での研修を視察し、真剣に学ぶ姿に感銘した後、また昼食時間になり、この日の5食目となる食事を済ませたことから気付いたのですが、自分はタイ料理が好きかも、タイは初めてだったので新たな気付きでした。

次に医療機器を贈呈した病院を訪問し、実際に使わせていただきました。この医療機器は歩行障害のある患者さんがリハビリで使う機器です。患者さんには好評とお聞きしました。微力ながら素晴らしい授与ができたことに、グローバル補助金リーダー荒井エレクト、吉田副会長、東堂幹事、釧路クラブ会員の皆さま、ありがとうございました。

その後、ウェルカムパーティー会場でカラオケパーティーのような歓迎を受けて、34時間ぶりにホテルのベッドで寝ました。次の日、タイ観光をして知り合いの方にアテンドしていただき、無事26日朝、帰国しました。1泊4日という過酷な旅でしたが、心地よい満足感が味わえる旅でした。

以上もちまして本日の会長あいさつとします。今日も楽しい例会にしましょう。ありがとうございます。

幹事報告 東堂 光春幹事

皆さん、こんにちは。幹事報告となります。プロイラーチャブリーロータリーとサナンチャンロータリークラブよりバナーとお土産をいただきました。ホワイトボードの下に飾っておりますので、後ほどご確認いただければと思います。

ロータリーの友6月号の18ページと24ページにわが小船井パストガバナーの記事が載っております。パーソナルボックスに入れておりますので皆さま必ずご覧ください。
幹事報告は以上です。

退会のご挨拶

J R北海道株式会社釧路支社長 戸川 達雄君



J R北海道釧路支社の戸川です。実は、5月末で転勤することになりました。急に決まり慌ただし

く、いつも当社の異動はいつもこのように時間がなくて困ってしまうのですが、5月末で釧路を離れまして、6月1日からJ R北海道フレッシュキヨスクというキヨスクの会社で働くことになりました。これまで3年間、皆さまに大変お世話になりまして、歴史と伝統のある釧路ロータリークラブに加えさせていただき、大変いろんなことを教えていただいたことに感謝申し上げたいと思います。

こちらに来まして3年間、仕事もいろいろやっていたのですが、何よりも釧路のことを大好きになりました。何よりも涼しい、こんないい所はない。夏が涼しいだけでなく冬は雪が降らない。これも札幌から来た人間にとっては、こんないい所はない。雪かきをしなくても済む、これだけでも釧路は大変恵まれた地域だと思います。釧路を拠点としていろいろな地域に行って、さまざまな国際水準の観光地が広がっていて、それに間近で接することができる。やっぱり北海道は日高山脈より東側でないと本当の北海道ではないと思っています。ずっといられるのではないかと夢を見ていたわけですが、現実に「札幌に戻って来い」ということになってしまったわけです。引き続き釧路に思いをはせながら一生懸命札幌でも頑張りたいと思いますので、札幌にいらっしゃったときにはお声かけをいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。3年間、ありがとうございました。

■本日のプログラム■ 嵯峨記念奨学生新入生告会

嵯峨記念育英会委員会 吉田 秀俊委員長

皆さん、こんにちは。今年度、嵯峨記念育英会委員会の委員長を務めております、吉田です。どうぞよろしくお願いいたします



たします。本日の例会は、本年度新たに選出されました奨学生の紹介と皆さんからスピーチをいただく内容になってございます。

去る5月17日、石田理事長はじめ4人で選考委員会を開催しまして5名の方の奨学生が決まりました。先ほど、高橋会長からもご紹介ありましたけれど、私のほうから改めて紹介させていただきます。

江南高校から佐藤孝弥君と藤田蓮君、武修館高校から黒澤琉壱君、半澤琉成君、大高健太郎君の5名です。この後、皆さんから自己紹介、高校生活でやりたいこと、将来の夢についてスピーチしていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

トップバッターは、佐藤君よろしくお願いいたします。

釧路江南高等学校1年 佐藤孝弥君

釧路ロータリークラブの皆さま、こんにちは。釧路江南高等学校1年、佐藤孝弥と申します。この度は、嵯峨育英会の奨学生の一人として



選考していただき、ありがとうございます。

高校生活が始まり数カ月が経ち、環境にも少しずつ慣れはじめ、新しい友達、先輩ができて毎日楽しい高校生活を送っております。勉強面では中学生のころに比べると、内容の難しさや進行スピードの違いに驚きました。部活動では、小学生のころから続けているサッカー部に入部し、頼れる先輩、仲間を見つけることができました。

まだ始まったばかりの高校生活ですが、高校卒業後の進路へ向けて大事な3年間になります。どんな進路に進むかは自分次第です。後悔しないためにもたくさんの選択肢を持っていけるように頑張っていきます。

勉強や部活だけではなく、いつも僕の背中を押してくれるお母さん、どんなときでも味方でいてくれるお父さんに感謝の気持ちを忘れずに、いろいろなことを学び、経験し、たくさん自分を成長させる3年間を過ごしていきたいです。

結びになりますが、今日はこのような貴重な場でスピーチをする機会を設けてくださり、ありがとうございました。

武修館高等学校1年 黒澤琉壱君



釧路ロータリークラブの皆さん、こんにちは。武修館高等学校1年、黒澤琉壱と申します。この度、僕を奨学生に選出し

ていただきありがとうございます。皆さまに支えていただくことに感謝しながら、これからの高校生活を野球だけではなく、生活面でも自立心を養い、規律を守ることの大切さを学びながら文武両道を意識し、頑張っていきたいと思います。
今日はこのような場にお招きいただきありがとうございました。

武修館高等学校 1年 半澤琉成君

釧路ロータリークラブの皆さん、こんにちは。武修館高等学校からまいりました、1年2組の半澤琉成と申します。

この度、僕を奨学生に選出していただき誠にありがとうございます。
人生一度きりしかない高校生活を充実して過ごすために、健康にも気を使い生活していき、勉強と部活の文武両道もしながら、将来、責任のある社会人として成長できるように高校3年間を生活していきたいと思っています。
高校生活では自分自身と向き合い、親への感謝を忘れずに生活していきたいです。釧路ロータリークラブが夏に開催している全道中学親善硬式野球大会に毎年参加して釧路を訪れていて、武修館高等学校に入るきっかけにもなりました。その節はありがとうございます。
この度は、このような貴重な場に招待していただき誠にありがとうございます。



武修館高等学校 1年 大高健太郎君



釧路ロータリークラブの皆さん、こんにちは。僕は武修館高等学校からまいりました1年の大高健太郎と申します。
この度、僕を奨学生

に選出していただき誠にありがとうございます。勉強と部活の文武両道もしながら、将来どんなことにも失敗を恐れずチャレンジできる社会人になるため、頑張っていきたいと思います。今後の成長で恩返しできるよう全力を尽くして行こうと思います。
本日は誠にありがとうございました。

嵯峨記念育英会 吉田 秀俊委員長

今日は残念ながら都合により出席できませんでしたが、釧路江南高校の藤田蓮君からメッセージが届いておりますので、私を見ないようにして声だけ聞いてく

ださい。

メッセージ紹介

釧路江南高等学校 1年 藤田 蓮君

この度は高体連バドミントン大会のため、例会の出席ができず申し訳ありません。私は、家族や多くの方々に支えられていることを忘れずに病気の治療と並行し、勉強や部活動を頑張り、希望の進路へ向かって日々を過ごして行こうと思います。

私は高校生活を通じて新しいことに挑戦する大切さを実感しています。中学校生活では柔道部に所属し、礼儀作法や努力する大切さを学びました。高校に入ってから全く経験のないバドミントン部に入部し、新たな一歩を踏み出すことにいたしました。最初はラケットの握り方やシャトルの打ち方も分からず、戸惑うことばかりでしたが、毎日の素振りや体力作り、基礎練習に真剣に取り組むうちに少しずつ感覚を掴めるようになりました。柔道とは違い、バドミントンは俊敏な動きや細かい技術が求められるため、毎日の練習で新たな発見があります。足腰の強さや集中力などは柔道で培ったものが生かせる場面もあり、それが自信につながっています。

また、先輩の方々との交流も大きな支えとなっております。技術を丁寧に教えてくださったり、励ましの言葉をかけてくれたりすることで部活の雰囲気がとても温かいと感じます。自分もいずれ後輩にとって頼れる先輩になれるよう、今はその背中を追いかけいています。現在の目標は団体戦のメンバーに選ばれることです。そのために技術の向上はもちろん、精神的にも成長して行きたいと思っています。

高校生活のなかで努力を積み重ねることの意味を深く感じながら、これからも挑戦を続けて行きます。

こういうメッセージをいただいております。ありがとうございました。

これからは、石田理事長から嵯峨記念育英会の成り立ちなどについて説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

ご挨拶

釧路ロータリー嵯峨記念育英会 石田 博司理事長

毎年のこの時期に恒例となりましたのですが、嵯峨育英会の成り立ちについて拝読いたします。これは、私の前の嵯峨の理事長・吉田潤司さん



さんが作られた『嵯峨育英会のあゆみ』です。拝読します。

釧路市内の中心を流れる釧路川にかかる幣舞橋から富士見坂を登りきるその途中の木立の中、港を一望する場所に銅像が建っています。釧路の漁業近代化に情熱をかけた釧路水産会の先駆者、故嵯峨久氏を顕彰した像です。

大正初期の釧路港はマグロ漁業の基地として大変活気がありましたが、当時の漁船は、いわゆる「川崎船」といって、風帆船、帆を張った船です。つまり無動力船でした。台風等の悪天候の際には、港に戻る速度が極端に遅く、悪天候の被害をともに受ける海難事故が大変多く発生しておりました。そこで、久氏は積極的に漁業者に発動機船の導入を促し、漁業効率を高め、同時に悪天候等による被害を少なくするなど、漁業の近代化に努めました。

また、現在の副港魚揚場に岸壁、通称・嵯峨岸壁を構築し、マグロの水揚げ効率化に革命的成果をもたらし、釧路の水産業界に大変な業績を残されました。この嵯峨岸壁漁港は完全に民間の埋め立て事業として行われ、卸売市場・冷凍・冷蔵・製氷工場や漁業無線・燃料タンク基地がありましたが、残念ながら昭和20年の空襲で焼失しました。



故嵯峨久氏は釧路漁業の父とも言われた人で、昭和初期に釧路魚菜市場の社長を務めております。嵯峨氏は若いころ、大変貧乏で、向学心・

向上心に燃えていたのですが、経済的理由から十分な勉強をすることができず、成功を収めた後も「向学心に燃えた青少年に経済的援助を与えることにより、勉学の機会を与えることができないだろうか」と常日頃、話していたということです。しかし、残念なことにその夢をかなえることができず、昭和35年8月12日、病氣療養中に東京にて客死しました。享年84でした。当時の詳しい資料はありませんが、久氏は育英会設立に奔走されていたと思われます。嵯峨久氏の後を継がれたご子息の嵯峨晃氏もまた、釧路の漁業発展に尽くされ、経済的な手腕も相当なものがあり、釧路経済界のリーダーとして活躍された方でした。晃氏は、その父の夢をかなえようと苦労を重ねたうえ、久氏が亡くなったおおよそ1年後、昭和36年12月16日に『財団法人嵯峨青少年育英会』を設立しました。

当時、育英会を作ろうとすることは大変なことです。当然、現在のようにインターネットで調べることができず、育英会設立の手引書関係の本も皆無で、試行錯誤をしながら設立をしました。監督官庁との連絡をひとつとつても、長距離電話で交換手を経由し、空き回線を数時間待ちながら、指導を受けて書類を作成するというその努力は想像を絶するものがあります。東京

ロータリークラブ主管の米山奨学会が昭和27年設立です。それに遅れること9年で、北海道の片田舎で育英会が誕生したことは特筆すべき出来事ではないかと思われま

す。久氏、晃氏の2人とも釧路ロータリークラブのチャーターメンバーです。嵯峨晃氏は、1961年に分区代理制度ができた時のR I 350地区初代分区代理を務め、1965-1966年R I 350地区ガバナーを務めております。このころのロータリーは、北海道はひとつの地区だけだったのです。

晃氏は、育英会設立にあたり、育英会の目的について次のように述べております。

『人のお世話にはならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう。これは後藤新平の言葉です。自立、独立の志ある人、この人こそが、われわれの友である。この後藤新平の言葉にあるような人が現在くらい必要な時代はないように思われます。このような若い人を発掘して、われわれのささやかであるが、心を込めた贈り物をぜひ送りたい。これが、われわれ財団の念願であります』。

育英会設立当時の資料はほとんど残っておりませんが、設立申請書控え、および当時の預金通帳が残っており、設立時の苦労が感じられます。資料によりますと、設立時の基金は1,050万円です。現在のお金に換算すると、およそ1億円前後と考えられます。当時の晃氏は、漁業界はもちろん、釧路市の経済界においても絶頂期にあり、釧路経済界の重鎮として大活躍されていたことが伺えます。

育英会設立時は育英会の運営はもとより、奨学生の募集・選考、奨学金の給付などをひとりで行っていましたが、余りの忙しさの中で育英会活動を行う時間が少なくなり、育英会が休眠状態になりました。

そのような中、育英会設立からおおよそ10年後の昭和47年4月10日、突然、ご逝去されました。晃氏のご逝去があまりにも突然だったため、育英会理事長を嵯峨家より輩出することが難しく、やむなく釧路ロータリークラブ会員、今は亡き泉敬氏が理事長代行を務めることになりました。しかし、泉会員も当時は新進気鋭の弁護士として大変忙しく、育英会活動に多くの時間を割くことができず、活動は困難を極めました。



育英会および嵯峨家

として育英会継続方法を模索しましたが、昭和50年9月に嵯峨家より釧路ロータリークラブに以下のような申し入れがありました。

「釧路ロータリークラブに嵯峨青少年育英会を無償で譲渡したいので、以降の運営をお願いしたい」。

そこで釧路ロータリークラブは昭和 50 年 10 月に臨時総会を開催し、釧路ロータリークラブで運営することが承認されたのでした。

このような流れなのです。これまでに奨学生が 191 名、給付した総額は 6,984 万円になりました。当時と今では社会情勢も違っております。1 億総中流と言われている日本になりましたけれども、苦学生という言葉は死語になっているような状態で、財団の理事をしていて 10 年前、20 年前と比べるとずいぶん雰囲気が違うなと思いながら、私が理事長になって思うのは、とにかく嵯峨さん、嵯峨家の、嵯峨親子さんの想い、情熱というものをきちんと継承して行く、その場にロータリークラブがいて、それをお伝えする役割に大きなものがあるのではないかと思うように至りました。

2 万円ですが、この額が多いか少ないか分かりませんが、嵯峨の発足よりは小さく感じられる金額かもしれませんが、嵯峨さんの情熱・志は、わが釧路ロータリークラブのメンバーが何としても継承して行かなければいけないと思っております。どうぞ、その点にご賛同いただきますようお願いしたいと思います。今回の 5 人、きょうご出席の 4 人の方々に日本の将来を託します。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

嵯峨記念育英会 吉田 秀俊委員長

石田理事長、ありがとうございます。

皆さんが有意義で楽しい高校生活を送れますように釧路ロータリークラブメンバー一同は心から応援してまいります。いま石田理事長から話された嵯峨育英会の意義、嵯峨家の想いを皆さんは胸に刻んで、これから勉学・部活に励んでいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

本日のニコニコ献金

- 荒井 剛君 グループ補助金の贈呈式に出席するため、タイに行ってきました。次年度以降にも繋がる良い贈呈式でした。
- 高橋 直人君 微笑みの国タイから無事帰国しました。
- 吉田 英一君 タイから無事帰ってきました。コープンカップ
- 東堂 光春君 タイから無事帰ってきました。ありがとうございます。

今年度累計 499,000 円